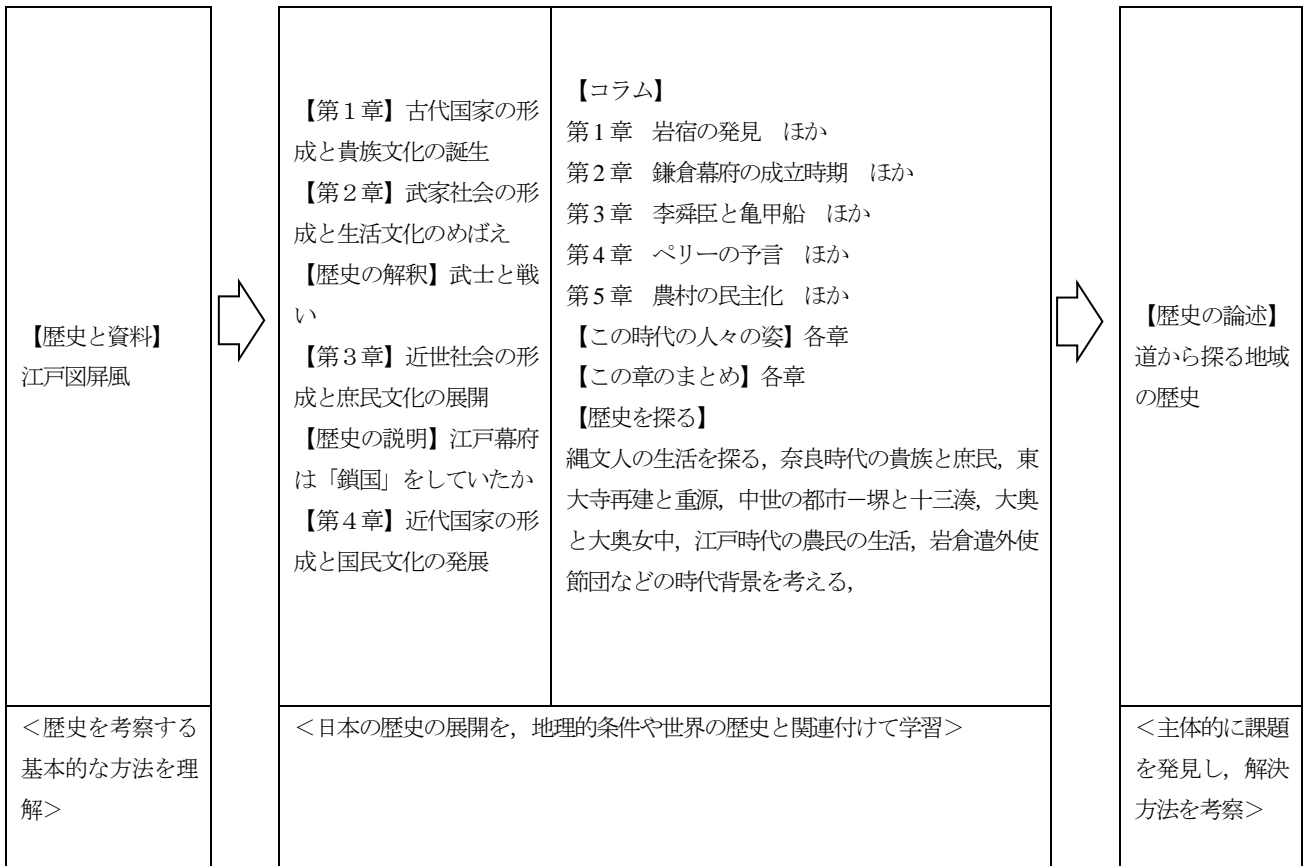


日本史B	単位数	2単位
	学科・学年・学級	地歴科 第3学年 1・2・4・6組 4クラス
使用教科書，副教材等	・東京書籍「新選日本史B」(日B303)・帝国書院「図説日本史通覧」(1組のみ)	

### 1 学習の到達目標

- ①我が国の歴史の展開を，諸資料にもとづき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察する。
- ②各時代の特色とその変遷の総合的考察を通じて，我が国の文化と伝統の特色についての認識を深める。
- ③歴史的思考力をつちかい，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
- ④3年次での継続履修にむけて，原始より近代までの基礎知識を定着する。

### 2 科目の特色



<p>歴史探求の方法</p> <p>【歴史の解釈】諸資料を活用して，歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈する。</p> <p>【歴史の説明】複数の歴史的解釈について，それぞれの根拠や論理をふまえて説明させる。</p>
---

現代の日本社会が抱える課題の多くは、歴史的に形成されてきたものです。私たちは、日本の歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連付けて学ぶことによって、それらの課題についてより深く理解することが可能です。そして、それらの課題を解決していくためには、歴史的な思考力、公正な判断力、豊かな表現力を身に付けることが必要です。このねらいを達成できるよう、新選日本史Bは以下のように構成されています。

本編にあたる第1章から第4章では、原始・古代から近代にいたる日本の歴史の展開を学習します。第1章では古代国家の形成について、第2章では武家社会の形成について、第3章では近世社会の形成について、第4章では近代国家の形成について、第5章では現代の日本と世界について学びます。各章末にはまとめのページが設けられているので、その時代がどのような時代であったのか、課題に沿って自らの言葉でまとめてみましょう。さらに、本編に入る前に「歴史と資料」、第2章の冒頭に「歴史の解釈」、第3章のなかに「歴史の説明」が設けられています。一連の学習を計画的に行うことで、歴史学習にかかわる基本的な技能を段階的に高めていけるように配置されています。

また、各章には、「この時代の人々のすがた」「コラム」「歴史を探る」が設けられています。これらの資料を通して、それぞれの時代の歴史を体験的に学習し、私たちひとりひとりが歴史の当事者であるという自覚をもち、課題を発見することをめざします。巻末に位置する「歴史に学ぶ」は、現代の私たちが生きていくうえで指針となりうるテーマを含む歴史的な事象を取り上げます。

これらの学習を通じて、歴史的な思考力、公正な判断力、豊かな表現力を身に付けていきましょう。

### 3 学習の計画

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
4月	4. 幕藩体制の動揺と庶民文化の発達	1. 幕藩体制の動揺と政治改革	○財政難に直面した幕府では、享保の改革を経て田沼意次による改革が行われたことを学びます。 ○社会構造の変化による幕藩体制の動揺に対応するため、寛政の改革が進められたことを学びます。	○財政再建を進めるために、徳川吉宗と田沼意次が行った政策を比較して考察します。 ○商品経済の発展が農民層の分解をもたらした理由について考察します。
5月		2. 幕藩体制の危機	○内外の危機が深まるなかで実施された天保の改革が失敗する一方、雄藩が誕生してきたことを学びます。	○19世紀前半に外国船が接近した理由を、世界史的視野から考察します。
		3. 新しい学問の形成と化政文化	○洋学・国学などの新たな学問と思想が発展し、江戸を中心とする町人文化が形成されたことを学びます。	○『解体新書』の訳出事業を参考に、蘭学が発達した過程について考察します。
	歴史の説明	江戸幕府は「鎖国」をしていたか	○複数の歴史的解釈について、それぞれの根拠や論理をふまえて説明することを学びます。	○江戸時代の対外関係を「鎖国」ではないとする見方と、「鎖国」であるとする見方とに分けて考察します。
	この章のまとめ		○近世社会がどのように形成されてきたのかを、自分の言葉で表現します。	○写真や地図などを参考にし、課題に取り組みます。

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
6月	第4章 近代 国家の形成と 国民文化の発 展	この時代の人々 の姿 近代	○絵画資料をもとに、近代の 人々の暮らしについて考察し ます。	○銀座煉瓦街の様子を描いた 錦絵の読み取りにもとづいて 考察します。
7月	1. 開国から明 治維新へ	1. 開国  2. 幕府の滅亡  3. 統一国家の 成立	○ペリーの開国要求で鎖国政策 が轉換され、日米修好通商条約 の締結によって始まった貿易が 社会に混乱をもたらしたことを 学びます。  ○政治の主導権をめぐる争いが 続くなか、薩長同盟の成立によ って討幕の気運が高まり、大政 奉還後の戊辰戦争で徳川方の勢 力が敗れたことを学びます。  ○版籍奉還と廃藩置県によって 天皇を中心とする統一国家が成 立し、身分制度が廃止されたこ とを学びます。	○日米和親条約と日米修好通商 条約の違いと、通商条約のもつ た意味を考察します。  ○グラフ資料を活用して、貿易 の実態について考察します。  ○大政奉還が実現した理由を、 国内外の情勢をふまえて考察し ます。  ○戊辰戦争において新政府軍が 勝利できた理由を考察します。  ○五榜の掲示などの史料を活用 し、新政府が民衆の期待に応え るものであったのかを考察しま す。
9月		4. 近代国家を めざして  5. 殖産興業と 文明開化  6. 明治初期の 国際情勢  歴史を探る 岩 倉遣外使節団	○学校制度の確立、国民皆兵が 近代化に必要とされたことを理 解し、地租改正による近代的土 地所有権の確立を学びます。  ○政府が積極的に近代化を進め た結果、交通や通信などのさま ざまな分野で西洋化が生じたこ とを学びます。  ○政府が琉球・朝鮮に対して強 圧的な態度で国境を画定させた 一方、ロシアとは平和的交渉で 国境画定を進めたことを学びま す。  ○岩倉使節団が欧米で見聞を広 め、国際認識を新たにしたこと を学びます。	○小作農が土地所有者に従属 し、重い現物小作料を納める関 係が残されたことの意味を考察 します。  ○社会の大きな変化に対して、 人々がどのような思いを抱いて いたのかを考察します。  ○地図を利用して当時の国境を 確認し、現代の領土問題につい て考察します。  ○岩倉使節団のコースを地図で 確認します。

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
10月	2. 立憲政治の形成と国民文化	<p>1. 政府専制への批判</p> <p>歴史を探る 西南戦争と庶民</p> <p>2. 立憲政治の成立</p> <p>3. 新しい文化の形成</p>	<p>○土族反乱の鎮圧後、自由民権運動が活発化し、国会開設の勅諭が出された経緯を学びます。</p> <p>○松方デフレ期に民権運動は衰退し、大同団結運動によって運動が再燃したことを学びます。</p> <p>○土族の商法を描いた錦絵をもとに、西南戦争が庶民の共感をよんだことを理解します。</p> <p>○大日本帝国憲法の制定後、初期議会で展開された政府と民党との対立の推移を学びます。</p> <p>○不平等条約の改正をめぐる交渉が、国際情勢の推移のなかで進展したことを学びます。</p> <p>○学校教育がしだいに国家主義化され、思想界でもナショナリズムの動きが現れてきたことを学びます。</p>	<p>○自由民権運動が目標とした憲法と、政府がめざした憲法との違いを考察します。</p> <p>○松方デフレが自由民権運動にあたえた影響について考察します。</p> <p>○土族たちが反乱をおこした理由について考察します。</p> <p>○日本国憲法との比較から大日本帝国憲法の特徴を考察します。</p> <p>○条約改正交渉が成功した理由について考察します。</p> <p>○新聞をはじめとして、啓蒙主義の普及に大きな役割を果たしたメディアについて考察します。</p>
11月	3. 日本の近代化と東アジア	<p>1. 日清戦争と東アジアの変容</p> <p>2. 「中国分割」と日露戦争</p> <p>3. 工業化と資本主義の発達</p> <p>歴史を探る 産業革命をささえた女性たち</p> <p>4. 近代文化の発達</p>	<p>○日本と清の朝鮮へのかかわり方を学び、それが日清戦争をひきおこしたことを理解します。</p> <p>○議会運営のために藩閥と政党が接近し、政党の政治的影響力が高まったことを学びます。</p> <p>○帝国主義が広まり、中国分割が進められるなか、朝鮮・満州における利権をめぐって日露戦争がおこったことを学びます。</p> <p>○日本が朝鮮を植民地化した経緯を学びます。</p> <p>○1890年代に軽工業で産業革命が進展し、重工業もそれに続いたことや社会問題が頻発するようになったことを学びます。</p> <p>○産業革命の進展の裏側には、過酷な労働条件で働いた女性の存在があったことを学びます。</p> <p>○文学や芸術の面で、伝統文化のうえに欧米文化を取り入れて国民的性格をもつ近代文化が形成されていったことを学びます。</p>	<p>○日本・清・朝鮮の関係が、戦争を通じてどのように変化したのかを考察します。</p> <p>○軍部大臣現役武官制がなぜ制定されたのかを考察します。</p> <p>○地図を活用して、中国分割の実態について確認します。</p> <p>○日比谷焼き打ち事件がおこった背景を考察します。</p> <p>○日本の植民地支配の特徴を考えます。</p> <p>○グラフ資料を活用し、産業革命による急激な生産拡大について考察します。</p> <p>○資料から労働条件の過酷さを読み取り、社会主義運動の展開と関連付けて考察します。</p> <p>○夏目漱石『それから』の一節などを読み、西洋文明と本格的に取り組んだ知識人のあり方について考察します。</p>
12月	4. デモクラシーと第一次世界大戦	1. 第一次世界大戦と日本	<p>○日露戦争後の政治がしだいに民衆の要求に応えざるをえなくなったことを学びます。</p> <p>○第一次世界大戦期に日本が中</p>	<p>○第一次護憲運動がなぜおこったのか、桂園時代の特徴をふまえて考察します。</p> <p>○日本が二十一条の要求を出</p>

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
1月		2. 新たな国際秩序と日本への影響	<p>国侵略を進めたことと、大戦景気が産業と民衆に与えた影響を学びます。</p> <p>○第一次世界大戦の前後、世界では国際連盟の創設や民族自決運動が展開し、国内ではさまざまな社会運動が展開したことを学びます。</p>	<p>した理由を、その内容から考察します。</p> <p>○国内における社会運動の内容から、当時の社会にどのような問題があったのかを考察します。</p>
2月			<p>○第二次護憲運動の結果、政党内閣が憲政の常道となり、普通選挙が実現したことを学びます。</p> <p>○世界的なデモクラシーの風潮を受けて、実証的な学問研究が発達し、教育や文学にも影響をあたえたことを学びます。</p>	<p>○現代の議院内閣制と比較し、憲政の常道が抱えていた問題を考察します。</p> <p>○それぞれの学問研究が、どのような点でデモクラシーの風潮とかわるのかを考察します。</p>
		5. 激動する世界と日本	1. 揺れ動く経済と中国侵略の本格化	<p>○昭和恐慌が深刻化するなかで満州事変がおこり、日本が国際的に孤立していったことを学びます。</p> <p>○政府の厳しい思想・言論統制が、軍部の台頭につながったことを学びます。</p>

#### 4 評価の方法

##### (1) 評価の結果を生かす

評価は自分自身の学習の成果を確認するためになされるものです。このことをしっかり確認し、不十分な点があればその後の学習につなげるようにしましょう。そのためには、返却されたテストやレポート、自己評価などの見直しを徹底しましょう。

##### (2) 評価の観点

評価は学習で身に付ける力を次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	<p>○歴史的事実と現在との結び付きを意欲的に調べ、考え、歴史を学ぶ意味に気づき、関心をもって主体的に学習に取り組んでいるか。</p> <p>○現代の社会が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく主体としての自覚をもって考える態度を身に付けているか。</p>
思考・判断・表現	<p>○日本の歴史の展開から課題を見出し、世界の歴史や国際環境等と関連付けて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。</p> <p>○歴史的に形成された諸課題について、さまざまな理解・立場があることをふまえて、公正に判断しているか。</p> <p>○課題についての考察や判断の過程や結果を、適切な方法を選んで効果的に表現しているか。</p>

資料活用の技能	<p>○日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。</p> <p>○得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探求する学び方を身に付けているか。</p>
知識・理解	<p>○基本的な歴史事象に関する知識を身に付け、各時代の特色を理解しているか。</p> <p>○日本の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解しているか。</p>

### (3) 評価の時期と方法

- ア 年5回の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における習得の状況を評価します。
- イ 「歴史の解釈」「歴史の説明」をはじめとする課題学習の際のレポートは、評価のための資料とします。課題の設定・追究学習を行う際には、「歴史の論述」を参考にしてください。
- ウ 学習活動の様子や発表、討論などの様子を評価のための資料とします。
- エ 自己評価、振り返りシートを評価の参考とします。

### (4) 評定について

評定は、上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行います。